

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390900078		
法人名	社会福祉法人 生き活き館		
事業所名	ケアポート生き活き館巨瀬		
所在地	高梁市巨瀬町5540-1		
自己評価作成日	令和 2年 2月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 2年 3月 6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「こころの通うひとづくり」の理念をもとに、利用者様個人を尊重した介護を目指しています。常に利用者様本位の ケアが提供できるよう心掛けています。また、認知症に関する研修や勉強会を通じて認知症の方への理解や 接し方等を学んでいます。100%満足出来る対応にはまだ至っていませんが、職員間でお互いに注意し合い、全員が心の通うケアを目指しています。地域の幼稚園と年三回交流会を持ち、また地域の秋祭りにはお神輿が来て下さったり、展覧会に出品させていただいたり、と地域の方達との交流も徐々に親密になって来ています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地元出身の入居者や家族と職員が共に生活する事業所内において、日々の会話の中でも地元の話や共通の知り合いの話など馴染みの関係があり、日常の生活の継続が自然に行えています。又、管理者はすべての来館者に対して丁寧な対応を心掛けており、職員にも自分たちが事業所の、更には地域の一員であることを意識し行動するよう指導しており、地域住民だけでなく様々な関係者との繋がりを大切に、信頼関係を築いています。お正月の門松作り地域の方が制作に来るのが恒例となっていたり、夏祭りにボランティアに来てくれる方もいたり地域との交流も定着してきています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の通う人作り」の理念を職員全員で共有し、利用者様の個人を重視したケアを行っています。	入居者と家族、両方に安心して落ち着いた生活が送れること、満足してもらえることを目標とし、関係者で連携を取りながら支援をし、理念の実現に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園児と年三回交流しており、当館に来て劇等披露してくれ、利用者と一緒に歌を歌ったりして楽しく過ごしています。また、地域の行事に参加したり地域の方が当館の行事にボランティアとして参加していただいています。	児童との交流、、展示会への参加では普段見られない入居者の顔や様子など新しい発見の場であり、自分の作品を出品することは意欲や喜びになっています。事業所は入居者がこれらを継続して行えるよう支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェはお休みさせていただいていますが、地域の方々との交流を通じて認知症への理解をいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、より多くのご家族に参加していただけるように開催時間を14時としました。会議で出た意見等は朝礼や職員会議で速やかに職員に伝えサービス向上に活かせるよう努めています。	毎回市の職員は参加しているが、家族にも事業所の日常を知ってもらうため、年に1回でも参加してもらえる様呼びかけています。参加者を増やしサービス向上へ活かせるような会議になるよう取り組んでいます。	今取り組まれている呼びかけを活かし、家族や地域住民とも話し合いが出来る場として今後サービス向上に生かされる会議とされていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高梁市の介護保険課から出席いただいております。また、わからないことは電話や市役所にて質問に応じていただいております。	市役所に出向いた際には担当者に声をかけ、気軽に話せる関係作りに取り組んでいます。必要時には悩みの相談やアドバイスをもらい解決できるような協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や通用口は施錠させていただいているが、居室やユニットは施錠せず自由に移動していただいています。	その都度職員で話し合い、どうすれば安全に入居者の意思を尊重できるか、他に方法はないのかを常に考え、身体拘束をしない支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、研修を行い職員全員が虐待に対する理解を深め、虐待が起らないよう意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加して権利擁護について学び、得た情報を職員が活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時、その他必要時に利用者様やご家族様に不明な点等がないか尋ね、ご理解いただけるよう説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や計画作成時、来館時にご意見をいただいています。意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。	意見があれば全職員で周知し自分たちがどうすれば良いのか、良かったのかを考え、対応を検討し運営に反映しています。又結果は必ず家族に報告し、これらの流れを記録にも残すことで、統一した対応ができるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会において意見を出し合い、運営に反映させています。	職員は入居者一人ひとりにどういった理由で又、どんな効果があるのかを考えて支援する様努め、必要時にはリーダーや管理者とともに話し合いながら反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、職員の勤務状況や実績を評価し、給与や賞与のアップを含め各自がやりがいがあるよう条件を検討しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、いつまでも向上心を持ってもらうために内外の研修への参加を促しています。外部研修については勤務扱いや交通費の負担等考慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や介護支援専門員は市内の同業者と交流できていますが、一般職員については、集まりが夜間にあることが多くなかなか参加できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の状況把握の時から、ご本人が困っていることや不安な気持ちを聞き出して、安心していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安についても、状況把握の時点から聞き取りをして関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族にとっての一番必要な事を重視して相談や助言を行っています。当館利用に限らず他のサービスについての説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単に介護する・される関係ではなく、人として対等な関係を保てるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていくことを目標とし、また、ご本人とご家族が良い関係を保てるよう配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の方からの手紙や来館は取り次いでおり、その方との関係が継続するように心がけております。馴染みの場所についてはご家族の対応をお願いしております。	地域住民の入居者も多く、事業所の行事に来てくれる地域のボランティアの方や、展覧会、受診時等外出した際にも顔見知りの方に会い触れ合う機会もあり、日常的にこれまでの関係継続を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を注意して見ております。新規の方が入られた時や必要と思われる時には席替えを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族のフォローはもちろん、現在担当の事業所や病院等とも連携を取り、支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人やご家族の意向を汲み取り、ご本人の希望を全職員が把握・検討する場を設けています。	同じことを繰り返し行う、言うなど日常の動作一つひとつに何か理由があるのではと常に考え、同じ質問を同じ雰囲気を作り問いかけてみることによって入居者の本質を探る等、本人本位の検討ができるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の状況把握にてご本人やご家族から聞き取りを行い、全職員が共有できるよう会議を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子については注意して観察し、朝夕の申し送りの際に伝えて職員全員が共有しています。また、必要に応じてカンファレンスを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族が今必要としていることを聞き取り、担当者会議にて話し合いを行い介護計画を作っています。	介護計画書を基に個別援助計画書を作成し、日々の支援の中でどの様にすれば行えるのか、より具体的な目標を立て支援が行えるよう工夫しています。又これらを細かく記録し、現状に即した介護計画作成にも繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の行動や言葉、職員の行動を記録しています。介護計画が現状と違ってきている場合にはカンファレンスを行い見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのサービスに限りもありませんが、ご本人やご家族にとって最善の対応を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や展覧会に参加して地元の方達と交流しています。日常とは違う時間を過ごして豊かな気持ちになって頂けるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前にかかりつけ医の相談をさせていただいています。また、入居後はご家族や医療機関と連携を取り適切な医療が受けられるよう支援しています。	専門医の受診時には家族が同行することが多いが、職員も同行し、日々の様子の報告や情報共有をしています。又、同行しない場合にも事前に入居者情報を医療機関側に提供する等し、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子は常に看護師に伝えており、必要に応じて受診する等主治医と連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院のケースワーカーとは情報交換を行っており、状況把握に行き利用者様が早く退院出来るよう共に支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方等については契約時から意向を聞くようにしており、希望に沿うよう援助しています。	終末期には本人、家族の希望を基に支援しています。又、現在看取りは行っていないが入居している方については順次、新規入居時には必ず希望を聞くようにしています。緊急時に看護師や医師と24時間連携が取れる体制も整えており、今後希望があればチームで取り組む準備をしています。	現在取り組んでいる終末期の希望や看取りの指針を進められ、本人、家族の意思を尊重しチームで支援に取り組んでいかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について研修を行い、救急車を呼ぶ時の手順書を電話の近くに配置しています。また個人ファイルの最初に、救急隊に伝える情報プリントを完備しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を行い、災害時に安全に避難誘導が行えるよう確認をしています。	近年の災害時には地域の方が水や食料を分けてくれる等の協力関係が築けています。日中、夜間想定等、安全に避難できるよう訓練を重ねています。	この地域には防災チームがあり、現在は各自で災害対策を行っています。今後地域とも協力しながら入居者も職員も安全に避難できる対策を講じられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通じて、利用者様のこれまでの人生や考えを尊重したケアを行うよう職員はお互いに注意し合うようにしていますが、十分とは言えない状況です。	職員は個々に考え支援を行っていますが、入居者の立場に立ってどうかを常に考え、職員同士でも意見交換しあうようにしています。必要に応じてその場に合った対応を管理者が指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活なので限界がありますが、その中でご本人が自己表現や自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内のスケジュールはある程度決まっていますが、利用者様のその日の体調を見て出来る範囲で希望に応じるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に合った装いが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳はスタッフが行っていますが、利用者様には食事前にテーブルを拭いていただいたり、食器の片づけを手伝っていただいています。	洗い物を進んでしてくれたり、野菜の皮むきをしたりする入居者もおられ、見守りの中でしてもらっています。食事前の挨拶を持ち回りでもらっていたが、入居者同士が話し合い担当者を決めるなど出来ることに取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量、体重などは記録に残し、変化には早急に対応出来るように看護師や医師と連携を取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個人差があるので、利用者様ごとに声かけやケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	足取りが不安定な方は夜間オシメにさせていただくことがあります。昼間は誘導にてトイレで排泄していただいています。失禁された時には自尊心に配慮した言葉かけをしています。	身体機能上、夜間オシメを使用していた入居者からの要望でトイレ誘導の支援を行うなど、本人の希望に沿った支援をしています。状態を見て臨機応変に対応し、自立支援に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の場合は水分量や運動量に注意していますが、さらに重症化がみられる時には看護時や主治医と相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は週三回、冬は週二回で基本の曜日を決めていますが、ご本人の体調や希望を聞いて臨機応変に行っています。	入浴だけでなく、必要時には清拭などの対応しスッキリした気分になってもらえるようにしています。一人ひとりのその日の状態、気分、タイミングなどを考慮し気持ちよく入浴してもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室はもちろんですが、共有スペースの和室コーナーやソファなどで休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や説明書で薬の確認を行い、その方の病状等を理解した上で服薬の支援を行っています。また、服薬後の観察も怠らないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にとっての楽しみや生きがいを尊重して、生き生きとした生活が送れるよう支援しています。また、小さな事でも何か役割を果たしていただくことが張り合いになると思っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生き生き館周辺の散歩はいつでも出来るよう支援しています。外食やお花見等の行事はユニット単位で考えています。個人的な外出先についてはご家族様にお願いしています。	冬場は窓を開けたり日当たりの良い場所で日向ぼっこをしたり気分転換できるような支援を心掛けています。気候や体調をみながら近隣の散歩をしたり、菊花展を見に外出し、地域の方との交流を楽しんでいます。又、遠出は家族にも協力してもらって出かけられるよう働きかけをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひと月1000円をお小遣いとして預かり、移動販売車が来た時に自分のお財布から支払っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があればこちらでダイヤルして電話をお渡ししています。手紙やハガキについても同様に手助けをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースの明るさや音、温湿度には注意をしています。また、壁面には利用者様が作られた貼り絵や行事の写真などを飾り季節感を出すようにしています。	日中はリビングで過ごされる方が多く、職員は入居者とのんびりテレビを見たり、雑談をしながら洗濯物を畳んだり、普段家にいた何をしている時間かを考え、ゆったりと過ごしてもらえる雰囲気作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやソファなど気軽に使える場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談の上、普段から使っていた家具や食器類を持参いただいています。	書をしていた方の家族が思い出の品を持ってきて居室に飾られてる方もいます。本人もそれを見る度に思い出し、思い出話を職員としたり、それぞれがホッとできる空間であるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存の能力を活かせる環境作りをしています。手を出し過ぎずご本人の自立を促します。		